

校名：三重大学教育学部附属小学校

所在地：〒 三重県津市観音寺359

電話番号：059-227-1295

記載日：2016年5月17日

記載者：中谷美智代

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

◎学校教育目標：「豊かな人間性を持ち主体的に考え行動する子どもの育成」

特に「よく考え自ら進んで行動する」子どもの実現に向けて研究教育活動を進めている。その成果は、主体的に学習を進める、集団行動において号令少なく自身の判断で行動する、登下校時・来校者に対して気持ちのいい挨拶ができる、といった子どもの姿に現れている。

◎本校の特色の一つ：「大学との密な連携」

日頃から大学教員と本校教員の相互の研究協力や連携した研究が活発に行われ、大学教員による、その専門性を活かした「連携授業」も毎年多数回行われている。

◎教員の専門性の向上の取組：「教職実践プログラム」

大学院教育学研究科には、教職実践プログラム(コースに格上げ予定)が設置されており、本校(三重大学附属四校園)教員向けに、在職しながら大学院での研究を進め教育学修士・専修免許を取得する機会が設けられている。本校では、現在1名の教員にこの制度が適用されている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査はしていない。
- ② 卒業生の具体的な活躍状況は把握できていない、情報も蓄積されていない。
- ③ 卒業生が子どもを本校に入学させる場合も多く、保護者や育友会役員・OB等から、卒業生の情報を得ている。また、3年に1度同窓会が開催され、交流や情報交換がされる。卒業生は、平成27年度末約6,000名で、多くの人材が幅広い分野で活躍し、それぞれの立場で重要な役割を担っていると聞いている。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査はしていない。
- ② 本校勤務経験者の具体的な活躍状況は把握できていない、情報も蓄積されていない。
- ③ 本校を転出した教員は、その後各市町教育委員会や県教育委員会へ勤務する場合も多く、県内各地でリーダー的な役割を担い、教育事務所長を務めた教員もいる。また、本校転出後、管理職となる教員も多く、公立小学校で主幹教諭・指導教諭として本校での勤務経験を活かしながら中核的教員となったり、校長・教頭として学校運営にあたりたりしている。また、退職後も、大学の特任教員として大学と附属学校・大学と公立小中学校との連携や、校内研修の指導にて活躍している教員もいる。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

〈公開研究会（第38次1年次）〉

教科等の本質的な学びを踏まえた アクティブラーニングの視点からの学習・指導方法の改善研究(仮題)

- ・2017年2月4日(土)：全クラス・全教科授業公開
- ・助言者は全員が学部教員、司会者は全員が本附校園他校種の教員が担当
- ・文科省の研究指定を申請中

→次期学習指導要領を見通したアクティブラーニングの研究は公立校へすぐにも還元できる。

〈学部附属連携授業〉

学部教員による専門性を発揮した授業及び教材開発・授業研究の協働

- ・A型連携・・・学部教員による授業
- ・B型連携・・・教材・指導法の共同開発、学部教員による研究支援
- ・C型連携・・・学部教員からの提案・希望による連携
- ・D型連携・・・上記以外の内容・形態



森林の授業

(県と連携して実施)



体育の授業

(大学の講義として実施)



味覚の授業

(1年間継続して実施)

→専門性の高い学部教員の授業は、子どもたちの視野を広げ興味関心を高めるために公立校でも求められる。

- ・学部教員との協働による教材開発・授業研究には、先進的な授業として発信する価値がある。
- ・学部教員がコーディネートして学生が授業にあたる場合もあり、学生の授業力向上・教員養成につながる。

〈四附一貫教育〉

隣接した敷地に立地している利を活かし、地域に提案できる一貫教育

- ・教科研究分野（各教科）と学校生活支援分野（生徒指導・発達支援・行事・情報）の研究
- ・授業、交流・協働を通じた視点・領域を絞った12年間のカリキュラムづくり
- ・一貫教育を進めるための組織づくり…四附一貫教育推進コーディネーター会議の設置
- ・四附校園合同研修会の実施 等

大学 ← → 四附運営委員会

四附一貫教育推進コーディネーター会議

教科研究分野

(各教科)

学校生活支援分野

(生活指導・発達支援・教育の情報化・行事)



技術・家庭「味噌汁づくり」



算数「割合」

(プレゼン・調理を中学生とともに) (学テから見た課題をもとに中学校教員が指導)

- 附属校園の教育や教育研究の質を向上させることができる。
- ・市町で取組の始まっている小中一貫教育に対して、附属で取り組んだ過程やカリキュラムづくり、各園校の連携・協働の方法等について提案できる。

<外部組織や育友会との連携>

◎外部組織等との連携

- ・大学他学部の教員による授業：アコヤ貝、電気等
- ・オーストラリア マレーファーム小学校とのテレビ電話（スカイプ）による交流学习
- ・県・津市との連携による授業：森林保全、社会福祉協議会、警察等
- ・県教委・市教委との連携：初任者指導、指導力向上研修、講師としての派遣、出前授業



木の二酸化炭素を測定
(県森林保全課)



車いす体験
(社会福祉協議会)



テレビ電話で会話
(マレーファーム小学校)



アコヤ貝の観察
(生物資源学部)

◎育友会との連携

- ・安全教育・防災教育
児童：あんしん手帳の作成、白い小箱の購入、交通安全教室、地震・煙体験等
保護者：交通指導、研修会の実施等
- ・教育活動への協力
ボランティア活動：ベルマーク整理、読書等（随時）
- ・環境整備活動（年3回）
- ・「おやじの会」の発足

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

地域における本校の存在感は、平成27年度の状況から、以下のような点で大きいと考える。

〈公開研究会〉

- ・第37次2年次公開研究会を実施（2月6日）

約650名の参会者があり、津市教育長をはじめ津市内からは100名を越える参会があった。参加会者からは授業の内容や子どもの姿を評価する声を多くいただいた。

〈県教委との連携〉

- ・初任者研修講座実施（10月）
- ・指導力向上研修講師派遣（5月）
- ・教育センターでの理科教育指導法講座・指導教諭主幹教諭研修講師派遣（7月）

〈市町教委との連携〉

- ・教育研究集会での助言者として講師派遣
- ・公立校での校内研修講師派遣
- ・公立校での出前授業実施

〈各種教育団体との連携〉

- ・算数・数学、社会、体育など、授業公開や実践報告、及び役員として派遣
- ・児童美術展に世話役・審査員として派遣
- ・企業との連携による研究実践（エネルギー・環境）

〈地域との連携〉

- ・県の森林保全事業との連携による授業実施（2月）
- ・津市内5年生による音楽集会への参加（11月）
- ・津市内中学校区校長会に一員として参加し、情報交換とともに人権教育事業に積極的に参加
- ・津市内中学校区青少年健全育成会議に一員として参加し、安全安心見守りや啓発活動を行う。
- ・津市小中学校長会の一員として会議に参加するとともに、役割を担っている。
- ・地域の高校と連携してスーパーサイエンスハイスクールを実施（11月）

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

本校の教育実践・教育研究は、ともに三重大学学育学部における教育・研究と日頃から極めて密接な関係にあり、大学教員と本校教員の相互の研究協力や連携した研究は活発に行われている。そのことにより以下が実現している。

- ・毎年公開研究会を実施し、次期学習指導要領改訂を踏まえた取組を具体化した授業公開として地域へ発信している。
- ・教育実地研究基礎、教育実習、教職実践演習などの主要な教員養成の教育課程が円滑かつ充実したものとして実施され、質の高い教員養成の重要な部分に貢献している。
- ・大学附属連携授業や学生ボランティアの活用等を通して、学生が子どもと関わる経験や教としての力量を高める場を多く提供している。
- ・学部教員が県や市町の学力向上等の助言者として関わり成果をあげていることで、県内・地域における教育学部の存在価値は高く、その教員が助言者として関わる本校の研究・実践に対しても地域からの期待は大きい。